

地方中核都市における高齢者介護サービス施設の整備課題

The Problem of Facility Planning for Elder People in Local City

大谷 博*, 高橋啓一**, 近藤光男***, 廣瀬義伸****

By Hiroshi OTANI, Keiichi TAKAHASHI, Akio KONDO and Yoshinobu HIROSE

1. はじめに

本格的な長寿社会の到来により、高齢者福祉が大きな課題になっている。なかでも介護を必要とする高齢者の増加が予想されることから地域の介護サービスを供給するための基盤整備をどのように進めていくのかが問われている。

2000年4月に介護保険制度がスタートした。介護保険制度は、家族だけで介護することが困難になりつつある状況に対応し、官民の多様な介護サービス供給者の参入を促進して、社会全体で支えていこうとする制度である。この制度がスタートするにあたって、訪問介護、訪問看護、通所リハビリテーションなど様々なサービスを行う施設や事業所が地域に立地し供給者として指定を受けている。

本研究は、こうした高齢者介護サービス施設・事業所について、徳島市において需要と供給の地域的バランスについて検討を行い、アンバランスがある場合、その解消には、施設を需要に対応して新たに配置するのか、既存の施設のサービス水準を上げることによって対応するのかなど、今後の整備課題について考察を行う。

2. 徳島市の高齢化の状況

(1) 徳島市の高齢者数の推移

2000年の徳島市の総人口は263,358人、このうち65歳以上の高齢者は45,207人、75歳以上の高齢者は18,061人で、総人口に占める割合はそれぞれ17.2

%、6.9%となっている。高齢者数は着実に増加しており、総人口に占める割合は急速に高まっている。徳島市保健福祉部によると、高齢者数の将来見通し¹⁾は、2004年には65歳以上の高齢者が50,710人で、総人口に占める割合は19.1%と市民の5人に1人が高齢者であると推計されている。

1995年の国勢調査によると、徳島市において、65歳以上の高齢者のいる世帯は27,351世帯で全世帯に占める割合は27.6%、また65歳以上の夫婦のみの高齢者世帯は5,078世帯（全世帯の5.1%、高齢者のいる世帯の18.6%）、高齢者のひとり暮らしは5,638世帯（全世帯の5.7%、高齢者のいる世帯の20.6%）となっており、高齢者世帯の割合は年々高くなっている。

徳島市保健福祉部の要介護高齢者等の実態調査²⁾によると、在宅及び施設での要介護・要支援高齢者は1999年度で5,877人（在宅は3,665人、施設入居は2,212人）、総人口に占める割合は13.0%となっている。これが2004年度には在宅が4,414人、施設入居は2,204人、これらを合わせて要介護・要支援高齢者は6,618人になるものと見込まれている。

表一 徳島市の高齢者数の推移

	人口(人)			総人口比(%)	
	総数	65歳以上	75歳以上	65歳以上	75歳以上
1980年	249,343	24,017	8,173	9.6	3.3
1985年	257,884	28,137	10,850	10.9	4.2
1990年	263,356	33,288	13,885	12.6	5.3
1995年	268,706	41,313	16,862	15.4	6.3
2000年	264,677	46,010	18,479	17.4	7.0
2004年	265,676	50,710	22,274	19.1	8.4

(2) 徳島市23地区の高齢化の状況

徳島市では、図一に示すように市域を23の行政区に分けて、各地区の地域特性を活かしながらまちづくりが進められている。1999年に策定された徳島市都市計画マスタープラン³⁾においては、23地区の

キーワード：都市計画, 高齢者, 介護福祉施設

* 学生員 徳島大学大学院工学研究科

** 学生員 徳島大学工学部建設工学科

*** 正会員 徳島大学大学院工学研究科

**** 正会員 徳島大学工学部建設工学科

〒770-8506 徳島市南常三島町2-1 TEL0886567338 FAX0886567341



図-1 徳島市23地区

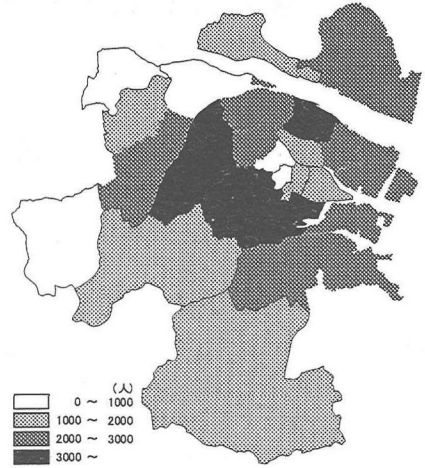


図-2 65歳以上の高齢者数

うち、内町、新町、西富田、東富田が都心地域、川内、応神、不動、北井上、南井上、国府、上八万、入田、多家良が郊外地域として位置づけられている。

図-2は、23地区別に65歳以上の高齢者数を示したものである。都心と郊外に挟まれた中間地域である八万地区や加茂名地区で高齢者数が多いことが分かる。図-3は、23地区別に65歳以上の高齢者比率を示したものである。都心地域と郊外地域で高齢者の人口比率が高くなっている。都心においては、商業機能、オフィス機能の集積が進み住環境が悪化したためより良い住環境を求めて30歳代や40歳代などの家族が域外へ転出するいわゆるスプロール化により高齢者の人口比率が高くなっている。また、郊外地域においては、就業などで若年層の域外流出超過が続いたため高齢者の割合が高くなっている。また、図-4は、23地区別に面積当たりの65歳以上の高齢者密度を示したものである。高齢者密度は都心地域が最も高く周辺へ向かうほど低くなり、郊外地域が最も高齢者密度が低く都心地域の1/4程度になっている。これは都心ほど住宅が密集して人口が集積しており、郊外へ行くほど集落が点在して人口が分散しているためである。これらのことから、都心地域は高齢者数はそれほど多くはないが高齢者密度、高齢者比率とも高いこと、郊外地域は高齢者密度は低い、高齢者比率は高いこと、また、中間地域は高齢者密度、高齢者比率とも高くないが、高齢者数はさほど少なくはないことが分かる。このように23地

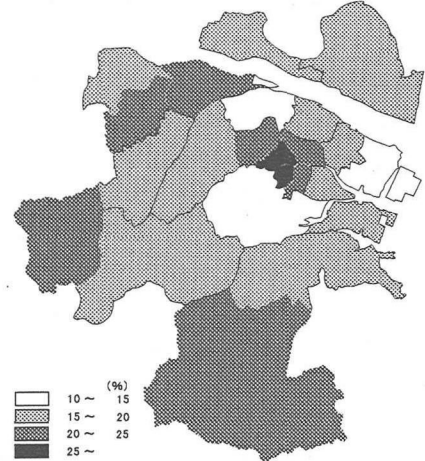


図-3 65歳以上の高齢者比率

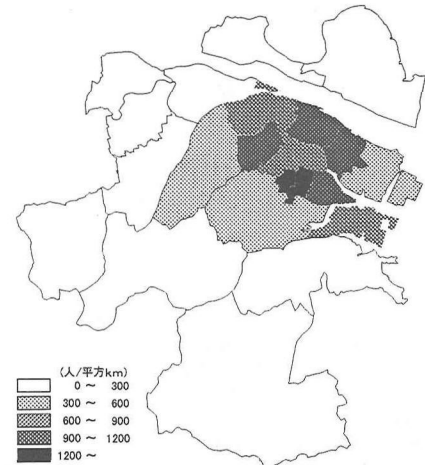


図-4 65歳以上の高齢者密度

区別にみると、高齢者介護需要には地域的に違いがみられる。

3. 高齢者介護サービス施設

在宅サービスには、訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所介護（デイサービス）、通所リハビリテーション（デイケア）、短期入所生活介護（ショートステイ）などがあり、また、施設サービスには、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、介護老人保健施設（老人保健施設）などがある⁴⁾。これらのサービスは都道府県によって指定を受けた施設や事業所が行っているが、こうした全てのサービスをひとつの施設・事業所で行っている場合はそれほど多くはなく、サービスによって供給者が異なる場合が多い。介護保険制度では、要介護認定を受けた人は、心身の状況に応じて居宅介護支援事業者（都道府県の指定を受け介護支援専門員（ケアマネジャー）を配置している事業者）と話し合い、各種サービスを組み合わせた介護サービス計画（ケアプラン）を作成し、これにもとづいてサービスを利用するようになっている。その際必要なサービスを自由に選んで利用できるとされているが、現実には、サービスの供給側の立地場所やサービス水準によって一定の制約を受けている。

ここでは、身近なところで、在宅で高齢者の介護で困っている家族などを対象として、総合的な介護相談や在宅福祉サービスを行う機関として、徳島市

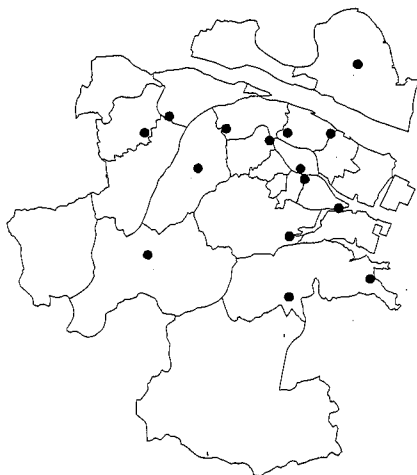


図-5 在宅介護支援センターの位置

が業者委託して設置している「在宅介護支援センター」を高齢者介護サービスの供給対象としてとりあげ、その地域的な需給バランスをみることにした。

4. 在宅介護支援センターの地域的需給バランス

(1) 需給バランスの考え方

徳島市保健福祉部によると、現在のところ徳島市全体としてみれば需給バランスはとれているとのことである。ただし、高齢者の施設までの移動に伴う負担など空間的な制約や需要のピーク時間を考慮しない場合において需給バランスはとれているということである。現実には、利用者側の使い慣れなどから、移動の大変さを越えて遠くから施設を利用している人がみられ、また、利用者側が利用者が集中しがちな時間帯を避けて、利用していることも多くみられる。

ところで、施設のサービスが同質なら利用者にとっては施設が近くにある方が良く、利用者が同質なら供給者にとっても近くに利用者が存在する方が良く、仮に施設のテリトリーが重ならない（利用者は最も近くの施設を利用する）としたら、需要に地域的な偏りがあれば需給はアンバランスになっていると思われる。それから将来の需要増に対して、現在の供給で足りるかどうかとも考えておく必要がある。足りないとしたら、現在の施設のサービス水準を上げるか、地域的バランスを考えて別途新しく施設を立地させるといったことが必要になる。

(2) 23地区の需給バランス

図-5は、現在の「在宅介護支援センター」の立地場所を示したものである。徳島市内には「在宅介護支援センター」が15か所配置されている。

23地区別にみると、勝占地区のように地区内に2か所配置されているところもあれば、沖洲地区のように全く配置されていない所もある。行政区単位で見ると、需給バランスはとれていない。

(3) 垂直ボロノイ図を用いた地域的需給バランス

垂直ボロノイ図は、複数の点が配置されている平面において、2点間を結ぶ直線の中央でこれと垂直に交わる直線を引いて、これらの交点を互いに結ぶことによってできる平面分割図である。平面地図上にある複数の施設の立地点をもとにして垂直ボロノ

イ図を作成すると、できあがった平面分割図は、施設間を等距離で結んでいることから、施設のテリトリーを図化したものとみなすことができる。

図-6は垂直ボロノイ図を用いて作成した「在宅介護支援センター」のテリトリーとそのテリトリー内の65歳以上の高齢者数、すなわちそれぞれの「在宅介護支援センター」が受け持っている高齢者の数を示したものである。「在宅介護支援センター」の現在の配置状態では各施設が受け持つ高齢者数には1,000人～4,000人程度の開きがある。

図-7は「在宅介護支援センター」のテリトリー内の65歳以上の高齢者の人口密度を示したものである。各施設のテリトリー内の高齢者密度には大きな違いがみられる。

5. おわりに

高齢者介護サービス施設の需給バランスを簡便な方法によって分析した。徳島市では、基本的な行政区である23地区の高齢者数、高齢者比率、高齢者密度にはばらつきがみられ、介護需要はこれに比例して地域間で量的に違いがあることが分かった。一方、総合的な介護相談や在宅福祉サービスを行う機関として徳島市が業者委託して設置している「在宅介護支援センター」が15か所配置されているが、これらの施設のテリトリー内の高齢者数、高齢者密度は同じではなく、施設が受け持つ介護需要には量的に違いがみられた。仮に各施設の介護サービス供給量に違いがないとすれば、需要と供給の地域的バランスはとれておらず、新たな施設整備が必要であると思われる。

なお、需給バランスをみるには施設のサービス水準を加味する必要があるが、介護保険制度がスタートして間もないことから現時点でサービス量を詳細に把握することができなかつたため行っていない。今後、施設側のデータを収集し、施設のテリトリーについてもさらに検討を行う予定である。

<参考文献>

- 1) 徳島市保健福祉部, 徳島市高齢者保健福祉計画, 平成12年3月
- 2) 徳島市保健福祉部, 要介護高齢者等の実態調査報告書, 平成11年3月

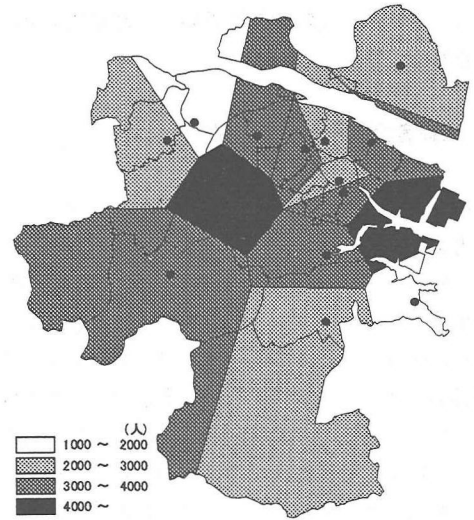


図-6 在宅介護支援センターのテリトリー内の65歳以上の高齢者数

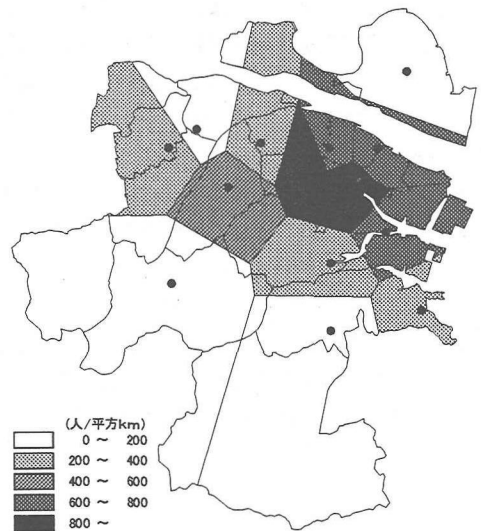


図-7 在宅介護支援センターのテリトリー内の65歳以上の高齢者密度

- 3) 徳島市開発部, 徳島市都市計画の基本方針—都市計画マスタープラン, 平成11年3月
- 4) 徳島市保健福祉部, 介護保険に係る施設一覧表, 平成12年4月